# 平成２７年度第２回香川県教育センター運営協議会　会議録

**【日　時】**　平成２８年２月２９日（月）１４：００～１５：３０
**【場　所】**　香川県教育センター　３階第２研修室
**【出席者】**　委員８名、教育センター所長外５名　※傍聴人　無し
**【議事概要】**平成２７年度事業実施状況及び平成２８年度事業計画について
**【主な質疑応答】**

○調査研究事業について

| | |
|---|---|
| 委員 | 研究発表会は、小・中・高と連携もとれていて、「とても良かった」という生の声をたくさん聞いた。「アクティブ・ラーニングによる授業の質的転換に関する調査研究」の発表は、現場に応じた内容でわかりやすかったので、学校に持ち帰って情報交換もした。<br>また、タブレットＰＣの活用についても、実際に目の前で見ることができて、とても参考になった。参加者も話し合うなど、内容に工夫がされており良かった。 |
| 事務局 | 教員の資質能力の向上について、12 月 21 日に中央教育審議会からの答申が出された。その中のひとつに、アクティブ・ラーニング型研修があり、講義形式だけでなく、お互いが話し合ったり意見を述べ合ったりする場をつくることなどが重要視されている。今回の研究発表会も発表の内容だけでなく方法についても悩み、参加者が学校現場で子どもたちに授業をするような形を意識したが、今のようなご意見をいただき嬉しく思っている。 |
| 委員 | 全国学力・学習状況調査及び香川県学習状況調査の結果分析について、今年度はデータだけでなく問題例を入れながら分析していただきとてもわかりやすく有り難かった。<br>分析結果も、冊子だけでなく教科毎のリーフレットを配付するなども検討してほしい。 |
| 委員 | 幼稚園・こども園からの参加だが、本当に参加して良かった。スタートカリキュラムは小学校への繋がりのためのものであるが、幼稚園での「遊び」はアクティブ・ラーニングの考え方そのものである。先日の研究発表を聴いていたら、小学校への移行がスムーズにいくのではないかと期待もできた。園長会などを通して研究発表会に積極的に参加するように啓発したい。 |
| 委員 | タブレットＰＣの活用に関する調査研究が出ているが、タブレットＰＣを全生徒に配付することは難しいと思うので、それ以外のＩＣＴ機器のコストパフォーマンスや気軽な使い方などの研究も必要だ。効率的に効果的にＩＣＴ機器を活用し業務改善ができれば、教員の負担軽減にもつながる。 |
| 事務局 | タブレットＰＣの配置は、小・中学校の場合は市町毎に状況が異なるので、デジカメや書画カメラなどを使っての有効な活用方法も、ＩＣＴ活用ハンドブック「授業で役立つタブレットＰＣ」で紹介している。 |

○教職員研修事業について

| | |
|---|---|
| 委員 | 新聞を教材に活用するＮＩＥ教育を県教委と協定を結んでやっている。選挙年齢の引き下げについて、両方の主張を載せている一般紙を教材に活かすこともできると思う。常設的な研修に組み込むことは難しいかもしれないが、公開講座などで取り上げてほしい。 |
| 委員 | 特別支援教育は職務研修で取り上げているが、この４月から障害者差別解消法が施行され、一人ひとりにあった合理的配慮が必要になってくる。ぜひ管理職の研修でも触れてい |

| | |
|---|---|
| | ただければと思う。 |
| 事務局 | 管理職の研修でも特別支援教育の研修を行っており、その中で触れられていくことになると思う。 |
| 委員 | 初任者が増えていると聞いているが、採用されてすぐ、担任をもつのか。また、１年で辞める先生も多いのか。 |
| 事務局 | 新規採用者は増加傾向であり、今後数年は続く。基本的に小学校はほとんど担任をもち中学校も多い。また、極々少数だが、１年で辞める人もいる。 |
| 委員 | 平成２７年度の受講者の満足度調査の「不開講」は台風が原因か。管理職マネジメント研修の危機管理の内容がとても良かったのだが、不開講になっている。 |
| 事務局 | 参加希望者が２名以下の場合、不開講となる。危機管理については、本年度も専門研修で実施している。 |
| 委員 | 学校経営上、学年主任も大きな役割を担っているが、最近は若年教員も増え、ミドルリーダーが学年主任になるケースが増えてきているため、職務研修として新任の学年主任研修を検討してほしい。 |
| 事務局 | 学年主任については、ミドルリーダー養成的な研修の中で対応したいと思う。 |
| 事務局 | 国の答申でも、悉皆研修の１０年経験者研修ではなく、ミドルリーダーとなる人を対象にしたミドルリーダー研修にシフトするという動きがある。<br>また初任者研修も、現在は１年目に２０日程度実施しているが、それを２年目や３年目に分けて実施するなど、もっと柔軟な運用をという考えもあるので、今後２～３年で、研修の見直しも必要になってくると思う。 |

○教育相談事業について

| | |
|---|---|
| 委員 | しつけ方や育て方というのは学校教育で学ぶことがなく、最近の保護者はとても不安を持っているようだ。核家族や一人親家庭が増え、両親や祖父母からしつけ方や育て方を学ぶ機会が少なくなったことが、親の不適切な養育にもつながっているのではないかと思う。しつけや育て方についての相談があったときに参考となる資料があれば保護者に配ることができる。 |
| 事務局 | 教育センターでは、学校での相談活動を支援するため、サポートブックなども発行・配付してきたが、今のご意見も参考にしたい。 |
| 委員 | 問題のある子どもに対応するために、学校支援アドバイザーやスクールソーシャルワーカーが保護者との関わりを深めることで成果をあげた例もあるので、これからもコンサルテーション事業や連携システムで、県が関わってくれると有り難い。 |
| 委員 | 特別支援教育課の巡回相談はいつごろ決定するのか。相談員の名前も早くわかれば良いと思う。 |
| 委員 | 申込み時期も早いが、5 月初めごろ決定するようだ。相談員は 4 月中頃には決まっていると思う。 |
| 委員 | 発達障害など支援を必要とする子どもが増えてきており、平成２６年度に転入してきた１８名のうち、１１名が支援を必要とする子どもだったという学校もある。最近は家庭的に支援を必要とする子どもが多い。 |

| | |
|---|---|
| 委員 | 巡回相談は保護者の承諾を得なくても相談できるので良い。８月にある就学前の相談は、保護者の承諾を得る必要があり、心の負担も大きくて拒む保護者も多い。<br>３歳児の保護者の巡回相談は９月頃多くなってくる。運動会などの集団活動の場で保護者が子どもを見て、他の子どもより遅れているのではないかと、個人差を受け入れられない場合が多いようだ。 |
| 事務局 | 巡回相談は申込みや決定の時期が早いので、年度途中で学校や園が相談したいときに応じるのが、教育センターの役割である。発達障害に関する相談体制の４つの機関がそれぞれの役割を果たし、少しずつ隙間を埋められればと思っている。 |

〇その他

| | |
|---|---|
| 委員 | 教育センターは施設開放や教育ライブラリーがあるが、三豊や東讃からは遠い。また、気軽に相談したり教育について話し合ったりできる場としても羨ましい。<br>本来は、市町の役割かもしれないが、三豊や東讃にもこのような施設があればと思う。 |
| 委員 | 教員は、幼・小・中・高の発達を見ながら教育をすることが大事だ。 |
| 委員 | 先日、高松第一学園に行ったが、同じ職員室に小学校と中学校の先生がいるので、生徒に関する情報交換もしやすい。小・中連携について学べることも多いので、小中一貫教育の研究成果をもっと広めるべきだ。 |
| 委員 | 市町によって、小中連携の取り組み方は異なる。それぞれの学校が忙しくて集まることも難しいが、集まるとお互いの苦労も理解できて連携もできると思う。ぜひ意識してそういう場を作っていければよいと思う。 |